

# 新「道の駅」かんおんじ（仮称）基本構想（概要版）

令和5年5月



# 1. 観音寺市の現状と課題

## 人口

- 本市の人口は今後も減少を続けると見込まれ、将来人口推計によると、令和27年の総人口は37,910人という結果になっており、このままでは、まちの活力の維持にも懸念があります。
- 生活し続けるまち、移住してくる人を増やせるまち、外部への流出を減らし、人が戻ってくるまちとしていく必要があります。

## 産業

### 一次産業

- 本市の農業、畜産業、漁業は、それぞれの分野で様々な生産物を生産し、その一部についてはブランド化されるなど、魅力の高い物となっていますが、就業者の高齢化や後継者不足などに直面しており、経営者数も減少を続けています。

### 二次産業

- 製造品出荷額ではパルプ・紙・紙加工品が、事業所数及び従業者数では食料品が最も多く、本市の主力産業となっています。今後は、市内で製造される商品をPRするため、販路の拡大や市内で販売できる売り場の設置を進める必要があります。

### 三次産業

- 商業は、経営者・事業主の高齢化や後継者不足が深刻な状況にあり、平成11年度以降、商店数や販売金額等は減少傾向にあります。観光については、多くの資源がありながら、日帰り観光が中心のため、観光消費額は全国平均を大きく下回っています。

## 市民ニーズ

- 本市への定住意向率や愛着度は比較的高いものの、若い世代の定住意向率や愛着度は低下してきています。
- 商業振興に関しては重要度は高いものの満足度が低く、大きな課題となっています。定住意向に関連しても、遊び場、娯楽の不足や働く場の不足を指摘する意見も多く確認されました。
- その他、まちづくりに関する情報発信不足を指摘する意見も多く確認されました。

# 1. 観音寺市の現状と課題（まとめ）

- 本市の「強み」「弱み」を地形条件や統計資料、市民アンケートの意見等から抽出し、社会動向もあわせて、SWOT分析の枠組みにより整理しました。

## プラス要因

### 強み(Strength)

- 市内に住み続けたい定住意向率や愛着度が比較的高い
- 自然が豊か
- 台風や大雪の被害が比較的少ない
- 四国のほぼ中央部に位置し、四国4県の県庁所在地には、車で約1時間圏内にありアクセス性が高い
- 年間50万人が訪れる琴弾公園等の観光資源が多い
- アニメコンテンツ等の固有の文化
- 第一次産業が盛ん
- ちょうさ祭等の伝統的な文化
- 市内高校等と産学官連携による新商品の開発
- 高品質な産物を有する

内部環境

## マイナス要因

### 弱み(Weakness)

- 市内で子どもたちが遊べる場所や施設が少ない
- 買い物の便が悪い
- 他都市に比べて安全なもの、災害リスクは依然として存在
- 公共交通の便が悪い
- 観光消費の実績は一人当たり4,062円と全国平均34,240円に比べ低い
- 宿泊施設が少なく滞在時間が短い（日帰り客が多い）
- 観光等に関する情報を集約し、地域を訪れる観光客に発信する施設がない
- 市内に若者が働きたい職場が少ない
- 市内の諸産業の後継者不足・高齢化
- 支援や施策等の情報発信が十分に伝わっていない

### 機会(Opportunity)

- 新型コロナウイルス感染症による社会・観光の在り方の変化
- 大阪万博以降、中・四国への訪日客の増加が期待
- 観音寺スマートインターチェンジ（仮称）が整備（令和7年度末完成）
- 国においては地方創生を重点課題として位置付け、課題解決の一例として、地方創生拠点の核となる「道の駅」が期待されている
- IT・ICTの進展によるEC/通販環境の拡大

外部環境

### 脅威(Threat)

- 人口減少・少子高齢化の進展
- 隣市町における大型商業施設の進出
- 市内の諸産業の後継者不足・高齢化
- 新型コロナウイルス感染症による社会・経済の悪化
- 南海トラフで発生する地震や近年の大雨等の災害のおそれ

# 2. 新「道の駅」の必要性

## SWOT分析

強み(Strength)	弱み(Weakness)
機会(Opportunity)	脅威(Threat)

強み・機会を生かし、弱み・脅威に対応するために、市民による郷土への愛着を高めるとともに、来訪者の拡大により交流・関係人口を増やし、人口減少に起因する地域経済などへの影響を縮小・緩和する必要がある。

好循環の実現

まちの魅力の向上	来訪者の増加	消費行動の誘発
定住人口の増加	就業の魅力化	地域経済の活性化

新たな“にぎわい”の拠点となる新「道の駅」の整備により、好循環の実現を目指す

## 新「道の駅」の位置付け

にぎわいの核・シンボルとしての位置付けを与えるとともに、

- 本市に暮らす市民の日常利用
- 本市の内外から人を招く
- 本市の新たな魅力を育む

本市に関わる人々の拡大を目指す施設とします。

### 【既存の道の駅との関係】

#### 道の駅ことひき (平成6年登録)

「銭形砂絵」や「神恵院・観音寺」に近いものの交通アクセスが脆弱で、法規制により拡張が難しい



#### 道の駅とよはま (平成11年登録)

国道11号往来者の利用度が高いが、愛媛県境に位置しており、市民の日常利用や資源の連携面で課題がある



# 3. 新「道の駅」の基本理念

## 【新「道の駅」の基本理念(テーマ)】

「暮らす」「招く」「育てる」の真ん中で、新たな交流や体験を生み出す「道の駅」

## 【新「道の駅」の基本コンセプト】

暮らす

市民の誰もが日常的かつ安全・安心に集まれる「道の駅」

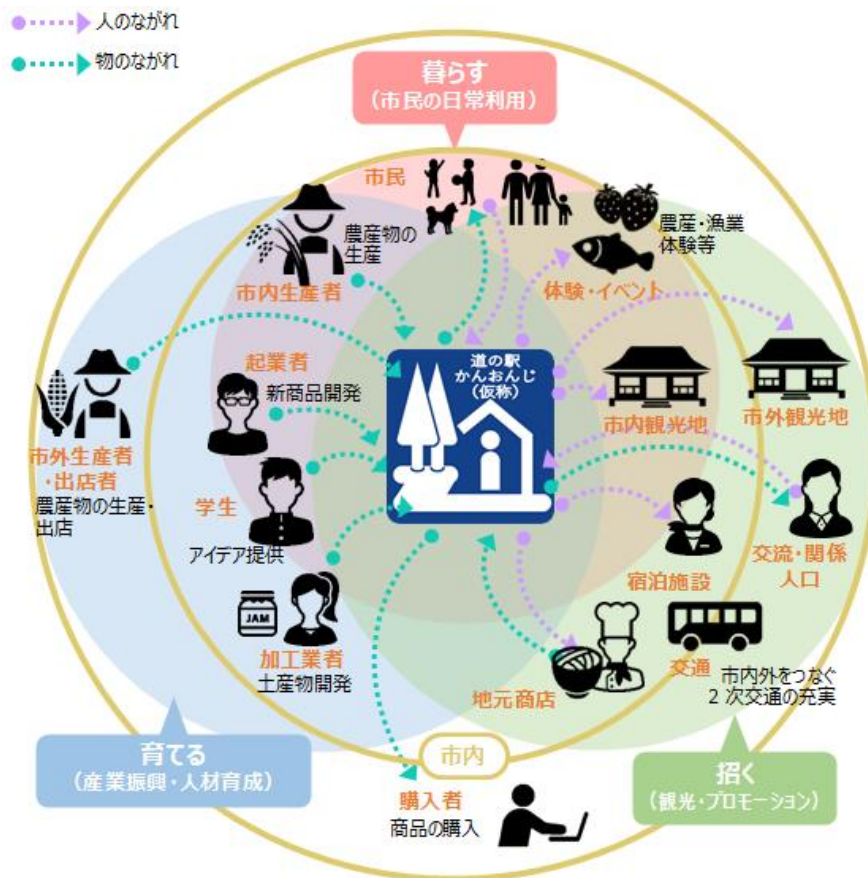
招く

本市や周辺地域において魅力あふれる「道の駅」

育てる

本市の新たな魅力を創造し、経済成長を牽引する「道の駅」

- 新「道の駅」を核に、「暮らす」「招く」「育てる」の3つの視点から、市民や来訪者を市内外の産業や資源獲得につなげ、本市のみならず、広くは県内や四国全域のゲートウェイとして、にぎわいを広域に波及させます。
- 本市との交流人口の増加に加え、さらに強い結びつきを有する関係人口の増加により、本市と全国をつなぐ拠点とします。



# 4. 新「道の駅」の基本目標

## 【新「道の駅」の基本目標】

- 基本理念、基本コンセプトに基づき、新「道の駅」を具体的に整備していくにあたっての基本目標を右のように設定します。

### 基本目標

暮らす  
(市民の日常利用)

#### 基本目標1 全ての市民が日常的に訪れ、交流できる拠点づくり

～市民をはじめ周辺地域の住民が日常的に訪れることができる場となり、全ての世代が交流を体感する～

#### 基本目標4 災害時の安全・安心な拠点づくり

～多発する豪雨や南海トラフで発生する巨大地震等に備え、市民や訪れた利用者が安心して利用できる～



#### 基本目標3

「人」を育て、「しごと」をつくり、  
地域産業の活性化に貢献する拠点づくり

～多種多様な事業者が横断的に関わる場となり、  
新たな地域産品やサービスを生み出す～

#### 基本目標2

観光客を呼び込み、地域外からの  
消費・投資を促す拠点づくり

～地域資源をつなぎ、プロモーションする  
ことで人やモノの流れを招き入れる～

育てる  
(産業振興・人材育成)

招く  
(観光・プロモーション)

# 5. 建設候補地

- 建設候補地は、安全性の視点、4つの基本目標による選定、事業実現性の指標による評価を踏まえ、国道11号沿いの観音寺市ちょうさ会館付近に広がる大規模空閑地を建設候補地としました。

新「道の駅」かんおんじ(仮称)  
建設候補地



出典:© NTTインフラネット, Maxar Technologies

※今後、採算性や交通量など必要なデータを踏まえ適切な規模を決定します。

# 6. 概略事業スケジュール（案）

- 観音寺市新道の駅市民検討委員会作業部会（仮称）、市民、事業者や関係機関等による意見を聴きながら、以下の概略事業スケジュール（案）により令和10年度（2028年度）中の開業を目指し検討を進めていきます。
- なお、概略事業スケジュール（案）については、整備手法や今後の関係機関等との調整により変更する可能性があります。

令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)
-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	--------------------

